

「イ……川赤襟さんでは年期が長い。仇な年増にや間夫が有る……テトロテン／＼のスツチャラチャンのチャン／＼……向ふの方で甲走た聲出しやがつてナ（お竹どん……お竹どん……何處へ行きやんや）（一寸玉水まで三ツ鉢云ひに……）（此間は寅さんと、道者横町の辻でお樂しみ。ピーてな事云ひよつて……ア、行き度いなア……オイ兄助……中兵衛。能ふ寝やがつたなア……エ、遣手めが眠むた相な聲で（末廣家はーん……。末廣家はーん……。）（へエ）……熱ふして二つや）……（うどんだつか）……（イ、ヤ狐）……ア、堪らんなア。オイ兄貴、起きいな一遍……。能う土寝さつたなア……川手枕さし替え顔見合はせて、あの憎らしい鐘の音……チャラチャンのチャン／＼の、オツピコピヨイのピヨイ／＼と……（粹な兄さんお這入りやす……這入てやつたら何やねん）……（オ、御親切に甘えて、一寸見せて貰ひまつせ……豪い皆燻ぼつた顔してるなア。こら五百羅漢の土用干か）……（憎たらしい口やなア貴方は）……（真中に居る娼妓。あれ何ちウ名や）……（良えお妓やろ。此松さん云ふのや）（ハ、ア、道理で大きな尻やと思ふたワイ。……此松忽ち大ケツと成り云ふさかいナ……此方の妓は又、豪う威張めた顔してるねナ。オイ一遍此方を見て見せたら何ふや……ア、夫れで此方向いてたんか。アハハこら濟まん堪忍してや……俺しに情眼と思ふて居たら。サツパリすかたん簀睨みちウ奴やナ……其隣りは又煙管掃除に能う精が出るや無いか。……中々手付きが良えがナ。ハハアお父つあの商賣夫れやな。……へ、鳥渡面白い商賣やで。抽出しの仰山附いた荷擔げて、鼠色の手拭で頬

被りして、……ダオーシカエー……）……怪つ態な素見し方せんと置きんか。樓の恰好が悪ふ成るがナ）……（何吐しやがね。此上悪ふなれる樓かい。オイ、掃除が出けたら一服つけて出しや）……（阿呆らしい、お前はん等につける貰は有れへんで）……（自身の喫ふ貰も無いのやろ）……（能うあんな事云えるでナ。心配しいな。貰は仰山買ふたアるわいな）……（そや／＼。仰山買ふたアるなア。皆煙草屋に預けて有るのやろ、要る時は端下錢持て取りに往くのやろ）……（何んでそない憎くたらしい事云ふのや。ナア伸直して一遍揚つといナ）……（揚れ／＼は曳子の憤ひ、去んで寝しやんせ末の爲ちウわい。……端の妓は何ちウのや）……（八重はんや）……（何、彌兵衛はんか）……（女に彌兵衛はんが有るかいな）……（彌兵衛は知らんが八兵衛は有るワイ。……向ふの二番目は）……（櫻はん云ふのや。ポツテリと能ふ肥えてはるやろ）……（肥えてるもんか、ありや腫れてよるのや。櫻々とウダ腫れて云ふてナ……アハハ夫でも活きてるかして動いてるワイ）……（動かいでナ。宅の子供衆は皆米の飯が喰べさして在ますのや）……（嘔吐け。お粥ばかり喰わしやがつて）……（そんな事知つてるのんか）……（斯んな稼業する者はナ。三度々々お粥の方が悪ひ病が抜けて良えのちやワイ）……（何でやネ）……（女三カいに梅毒なしと云ふワイ）……（もう宜え加減に去になはれ。あとが聞えるがナ。退いたら何ふや）……（狸魅き見たいに云ふない退けやなんて。云わんかて去ないでかい。何時までも見てたら眼の恰好が悪るふ成るワイ。テトロシヤンシヤンのスツカラカンのカンぢや）……（オイ二人共どふや……何